

大自然の脅威は、わが伊豆にも！



静岡県東部農林事務所
農山村整備部技監
まきのとしひろ
牧野 俊裕 氏

【略歴】1991年静岡県に入庁・東部農林事務所治山課配属、2015年中遠農林事務所治山班長、19年森林・林業局林業振興課班長、20年同課課長代理、22年同局森林整備課技監、23年から現職



大学では農学部で林学を修学し、就職の際には学んだ知識などを地元に戻元したいという気持ちから、県庁への入庁を選んだ。

東部農林事務所への勤務は2回目、入庁時に最初に赴任したのが同事務所だった。当時を振り返り、「インフラ整備が進み交通のアクセスが良



無事故・無災害願い 三嶋大社で安全祈願

安全委

三島建設業協会、三島建設業協会安全委員（小野徹会長）の山本良一総務委員長、三島労働基準監督署の大島均署長が参加して、今年1年の無事故・無災害を祈った。

その後、三建会議室で令和5年度第2回安全委員会を開き、令和6年度事業計画などについて協議した。

冒頭、森田委員長があいさつし、日頃からの安全委員会活動の協力に感謝の言葉を述べた後、



建国の祝いを終え 晴れやかな春へ歩む（三嶋大社 撮影 村上益男氏）

若手交流会を開催

みらい創造特委

三島建設業協会みらい創造特別委員会（梅原雅直委員長）は11月17日、2回目となる若手交流会を三島市内で開いた。

冒頭、梅原委員長は「この交流会を契機に、今後も皆さんが切磋琢磨しながら絆が深まることを期待している」と話し

熱海土木 三島労基署と 安パト実施

安全委・建災防三島分会

三島建設業協会安全委員（森田崇委員長）と建設業労働災害防止協会（静岡県支部三島分会）（小野徹分会長）は12月20日、熱海土木事務所（佐藤芳海土木事務所の日野原武次長はあいさつで、「年末年始は忙しい現場が多いが、安全が第一。しっかりと点検を行おう」と話し



現場では三島労働基準監督署の松田大知第2方



で、協会を引っ張ってほ

土屋建設(株)会長 土屋昭司氏のご逝去

（前・三島建設業協会会長）



土屋建設(株) 代表取締役会長
土屋昭司氏

三建の前会長で、常任相談役の土屋昭司氏が、去る12月30日ご逝去された。享年95歳。葬儀は1月8日、大仁平安典礼会館（伊豆の国市）にてしめやかに執り行われた。また、社葬は、2月7日（水）14時より大岡平安典礼会館（沼津市大岡二一七〇一）にて執り行われる予定。

同氏は昭和46年5月に土屋建設(株)代表取締

三建の前身で、常任相談役の土屋昭司氏が、去る12月30日ご逝去された。享年95歳。葬儀は1月8日、大仁平安典礼会館（伊豆の国市）にてしめやかに執り行われた。また、社葬は、2月7日（水）14時より大岡平安典礼会館（沼津市大岡二一七〇一）にて執り行われる予定。

同氏は昭和46年5月に土屋建設(株)代表取締

能登半島地震、 三建会員から災害派遣

沼津河川国道事務所

国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所（辛嶋亨所長）は7日、令和6年能登半島地震による被災地復旧支援のため、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）として、三島建設業協会（小野徹会長）が同事務所と結ぶ災害協定に基づき、協会の土屋建設（伊豆の国市、土屋龍太郎社長）の社員2人が同社の重機とともに災害派遣された。



チーム・組織で仕事を 未利用木材を有効活用

農林事務所の森林整備課で担当した合板工場整備の補助事業と、2015年から4年間で中遠農林事務所治山課で取り組んだ「ぶじのくに森の防潮堤づくり」。「どちらも県内の森林・林業施策の中では大きな事業であった。特に合板工場が整備されたことで県内の木材生産量は当時約30万立方メートルから、現在45万立方メートルを超え、現在に増産した。森の防潮堤も関わって約10年経つが、現在も工事が順調に進んでおり完成が楽しみ」と話

報を共有しなければ円滑に業務を進めることはできない」と話す。このため定期的に三課長とのミーティングを行う。

抱負・課題として、管内の林地開発や保安林の許可可案件が多いため、



武蔵野もこは真ん中梅
早し 日差し
連峰へ袖を預くる二月富士
春めくや心弾みて畑返す
マサ子
風つぐく白梅の花密やかに
礼子
ありつたけ入れて蓋浮く
和子
春の鍋
薄水（うすらい）をつつ
いて何を確むや 文代
八十路すぎ受身の暮し春の空
藍子
春風をゆるやかに押し太極拳 文子
肌白きアルルの女水温む
ソトム
春の月貝へと刻む波の寝
冴栄



趣味は花火

静岡県沼津土木事務所 所長

曽根 裕介

三建だよりの寄稿依頼を受け、「内容は自由」とのことなので、今回は私の大好きな花火のことを書いてみたい。

私は、若い頃から花火が大好きだ。学生の頃は、10月に土浦市で開催される全国花火競技大会を見るため下宿から20km離れた会場まで自転車を走らせ、就職時には熱海サンビーチで見る「冬の華」に心を躍らせてきた。そんな私の心を掴んだのが新潟の花火だ。花火大会の多い新潟で、私が特に好きな場所が二つある。今回は有名な長岡花火について書くと思う。



片貝花火四尺玉打ち上げ筒の前で
上越線と乗り継いで14時過ぎに長岡駅に着く。長女を駅前の

復興を祈願して始まった長岡まつりの花火大会が今に続いている。そのため、観光花火大会とは異なり、曜日に関係なく8月2日、3日の開催と決められており、1日の夜22時半に平和を祈願する白一色の花火「白菊」(今はこの名前は使われていないようだ)が3

復興を祈願して始まったカフエに残して2km先の会場まで歩き、シートで場所を確保してから駅前に戻って開始時間まで二人で待機する。帰りは午前1時30分頃に長岡駅を出発する新宿行きの快速に乗って朝8時に沼津に戻るという0泊2日の強行軍だった。

話はそれるが、通常は行列に並んで食べるラーメンを、行列なしで食べるといつもよりおいしく感じないという。苦勞して得たものは、より感動が大きいということか。長岡花火も家を出てから見るまで12時間以上かけているためか、信じられないくらい美しく、そして大迫力だ。850mの長生橋でのナイアガラ大瀑布、ビスビース超大型のスターメイン、尺玉100連発、正三尺玉など、「ベン」と打ち上げの時から全身に響くような音の花火が続く。

こうして楽しんでいた長岡花火だが、2004年10月に震度7の新潟中越地震が起きた。新幹線や高速道路が止まり、多くの人が家を追われた。私の記憶違いかもしれないが、年明け前から長岡まつりの開催について議論されていたようだ。仮設住宅に多くの人が避難し、日常生活もままならない中で花火を行っても良いのかという意見もあったと聞く。しかし、長岡の市民は復興のシンボルとして花火を行うと決めた。長岡花火は単なる観光花火ではない。傷ついた人を癒し、皆が前を向いて歩くために打ち上げる花火という想いがあったのだと想像する。そして復興祈願花火フェニックスが誕生した。復興応援歌であるJupiterのアカペラ「Every day I listen to my heart」といじらない」をきっかけに5分間のまことに光と音の饗宴が始まる。約1kmの区間に尺玉やスターメインがこれでもか言わんばかりに打ちあがる。2005年8月3日、私は会場にいた。思わず涙が出そうになったが、よそ者の私が流すのは失礼と思い我慢した。ただ、周りにはJupiterを口ずさみながら涙を流している地元の人はいっぱいいた。その後、あの2011年も同様の議論が起こり、最後に、私の好きなも



長岡花火会場から長生橋を望む

話に並んで食べるラーメンを、行列なしで食べるといつもよりおいしく感じないという。苦勞して得たものは、より感動が大きいということか。長岡花火も家を出てから見るまで12時間以上かけているためか、信じられないくらい美しく、そして大迫力だ。850mの長生橋でのナイアガラ大瀑布、ビスビース超大型のスターメイン、尺玉100連発、正三尺玉など、「ベン」と打ち上げの時から全身に響くような音の花火が続く。

こうして楽しんでいた長岡花火だが、2004年10月に震度7の新潟中越地震が起きた。新幹線や高速道路が止まり、多くの人が家を追われた。私の記憶違いかもしれないが、年明け前から長岡まつりの開催について議論されていたようだ。仮設住宅に多くの人が避難し、日常生活もままならない中で花火を行っても良いのかという意見もあったと聞く。しかし、長岡の市民は復興のシンボルとして花火を行うと決めた。長岡花火は単なる観光花火ではない。傷ついた人を癒し、皆が前を向いて歩くために打ち上げる花火という想いがあったのだと想像する。そして復興祈願花火フェニックスが誕生した。復興応援歌であるJupiterのアカペラ「Every day I listen to my heart」といじらない」をきっかけに5分間のまことに光と音の饗宴が始まる。約1kmの区間に尺玉やスターメインがこれでもか言わんばかりに打ちあがる。2005年8月3日、私は会場にいた。思わず涙が出そうになったが、よそ者の私が流すのは失礼と思い我慢した。ただ、周りにはJupiterを口ずさみながら涙を流している地元の人はいっぱいいた。その後、あの2011年も同様の議論が起こり、最後に、私の好きなも

更には直前の大雨で会場が水没したものの、急ピッチで復旧し長岡花火は実施された。元旦に大地震のあった今年も必ず開催されると確信している。そんな花火大会なのである。

私の稚拙な文章では魅力の1%も伝えられない。興味のある人は是非現地に行っていたきたい。規模では関東の花火に及ばないが、長岡花火のストーリーを少しだけ上げる。こちらも書き上がったが、紙面の都合もあるので別の機会にしよう。聞きたい方は1時間かけるつもりで所長室までどうぞ。

外国人も日本人も

誰もが活躍できる社会づくり

(公財) 静岡県国際交流協会 業務執行理事兼事務局長

加山 勤子



静岡県国際交流協会は、静岡県の国際交流と多文化共生を担う中核的民間国際交流組織として、平成元年に設立されました。国際理解・交流推進事業と多文化共生推進事業の2本の公益目的事業を柱に、外国人住民が直面する労働、医療、福祉、教育等にかかる相談機能や日本語支援の強化に取り組んでいます。

6月末現在、は過去最多になりました。このうちブラジルやフィリピンの日系人が多く、定住外国人の占める割合は63・2%と全国で最も高いという特徴があります。定住外国人の多くは派遣・請負で働いているため、新コロナ感染拡大等による経済状況が悪化すると解雇や雇止めとなる等生活困窮に陥り、その都度当協会が運営している外国人相談窓口にも多くの相談が寄せられています。

一方、静岡県の企業は、少子高齢化が進む中、必要な人材、特に若者の確保が困難となってきたり、人材の確保、定着、育成の重要性が高まっています。このような中、当協会は、雇用の安定が外国人の抱える問題の解決につながることを意識し、平成29年に無料職業紹介事業の許可を取り、中・長期的な人材の確保や育成に力を注ぐ県内企業と真面目で長く働きたい定住外国人とのマッチング

事業を行っています。今までのマッチング件数は31件と決して多くはないですが、すでにトラックドライバーとして欠かせない戦力になっている外国人社員、製造業で課長として若手育成に尽力している社員、自動車学校の教官で指導者として実績を積んでいる社員など、企業、外国人社員双方から感謝の声を聞くことが、何よりの励みとなっています。

静岡県では、「定住外

国人正社員就労促進事業」を実施しており、令和4年度・5年度と当協会が受託し、企業・定住外国人向けのセミナーを開催、企業の受け入れ体制や雇用の定着へのアドバイザー派遣を行っています。先日は静岡県建設業協会の会議の中で、事業の趣旨や定住外国人の様子を説明させていただきました。

会議では、正社員として建設業に従事するブラジル生まれの日系3世の方が働く会社を紹介しました。17歳で来日し30年、最初は派遣で工場勤務をしていましたが、工場の方から感謝の声を聞くことが、何よりの励みとなっています。

受け入れ企業からも、帰国などで長期休暇の申請があれば、時期によりますが相談の上許可もすること、指示についても時間を取ってわかりやすい言葉で説明をするようにしていること、国籍に関係なく仕事をしてくれた地域づくりに貢献していきたいと思っています。

外国人の支援事業を進める際に、日本の方から必ず言われる言葉があります。日本人だってまだ支援が必要なのに、外国人の支援には費用も対応も厳しいと。しかし、外国人の支援事業は、実は日本人にとっても重要な事業です。外国人も日本人も誰もが安心して暮

生コンの御用命は下記の会社をご利用下さい

熱海生コンクリート販売協同組合

事務所 伊東市吉田字長畑道上1026-37
TEL(0557)44-4411 FAX(0557)44-4412
E-mail: ataminamaconkumiai@joy.ocn.ne.jp

組合員

真鶴生コンクリート株式会社

神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴1898
TEL(0465)68-1171 FAX(0465)68-2521

熱海地区

伊東協同生コン株式会社 熱海工場

熱海市熱海1993
TEL(0557)52-6082 FAX(0557)86-1117

稲村生コンクリート株式会社

熱海市上多賀457番地の1
TEL(0557)68-1621 FAX(0557)68-0418

伊東協同生コン株式会社

伊東市吉田1026-37
TEL(0557)45-1366 FAX(0557)45-0360

伊東地区

株式会社富士宇部 東伊豆工場

賀茂郡東伊豆町稲取2230-1
TEL(0557)95-3168 FAX(0557)95-1988

鉄骨のご用命は当社へ

国土交通大臣認定工場Mグレード

株式会社 大城工業

代表取締役 大城 英一

住所 伊豆の国市神島49-1 〒410-2325
TEL 0558(76)-3299
FAX 0558(76)-5007

静岡県東部・伊豆で展開する一流の重機土工集団

倉田工業株式会社

〒411-0853 静岡県三島市大社町14-5
TEL.055-973-2200(代)
FAX.055-973-2202

倉田工業 三島 検索

http://kuratakogyo.com/

電気設備工事
設計施工

株式会社ダイナナ

代表取締役社長 内田 豪

本社 三島市梅名371-2
電話<055>977-3511(代)
熱海営業所・厚木支店

大野電機工業株式会社

代表取締役 日原 誠

三島市南二日町24-27 電話<055>975-1040(代)

近和電業株式会社

代表取締役 今瀬 誠

支社 静岡県三島市平成台8番地
TEL<055>986-5211(代)
静岡本社・東京支社

小窓

昨年の十一月五日、熱海渚小公園において「おたみ防衛防災フェスタ」が開催された。令和三年伊豆山で発生した土石流災害の復興イベントとして企画されたのが始まりで、今回は三年目となった。



技士会のアトラクションは子供たちに大人気。この日、建設業界が一堂に集結し、展示やアトラクションを通じてその活動内容を広く紹介し、市民や観光客に防災意識を高めてもらうのが主目的だ。

自衛隊・海上保安庁・警察・消防・そして建設業界が一堂に集結し、展示やアトラクションを通じてその活動内容を広く紹介し、市民や観光客に防災意識を高めてもらうのが主目的だ。

た、静岡県土木施工管理技士会「島地区ミニショベルカーや建設資材を利用したアトラクションを展開、さらに建機レンタル業者が試乗した。来場者が試乗した。たいへん人出が多かった今回のイベント、その理由はコロナウィルスの五類感染症移行によるだではない。

るつえ、熱海港へのシャトルバスも運行され、いわば「回遊型」イベントとしてリンクした。二つ目は口コミによる認知度アップだ。事実「おさかなフェス」が観光客中心の人出だったのに対し、「防災フェス」は地元民の顔馴染みや昨年も見かけた家族連れが多かった。地域住民からすればSNSよりもむしろ「毎

「土木の日」ブースに興味深く見入る

三年目の防災フェスタ

三建広報委員 出口直樹 (株)東豆

ル会社2社がそれぞれ高所作業車、バックホウの試乗体験を行った。第一回開催当時を思い起こしてみると、来場者一日で延べ435名もの

高所作業車の試乗では歓声も。この日、建設業界が一堂に集結し、展示やアトラクションを通じてその活動内容を広く紹介し、市民や観光客に防災意識を高めてもらうのが主目的だ。

はからずも年頭を迎えた。しかし「防災」といふ大きなくくりの中で、はたして、能登半島で未曾有の大地震が発生した。災害に巻き込まれるのは、地域住民とこそを訪れて、いる人たちであることは、伊豆半島でも変わらない。そのことを念頭において、日頃から防災チームの一員としての意識を高めた

はからずも年頭を迎えた。しかし「防災」といふ大きなくくりの中で、はたして、能登半島で未曾有の大地震が発生した。災害に巻き込まれるのは、地域住民とこそを訪れて、いる人たちであることは、伊豆半島でも変わらない。そのことを念頭において、日頃から防災チームの一員としての意識を高めた

歴史よもやま話 252

為朝の琉球渡島伝説

和泉清

鎮西八郎の名で親しまれてきた源為朝は、保延5年(1139)、源氏の嫡流・源為義の八男として生まれた。母は遊女であったという。頼朝や義経の叔父にあたり、その武勇は、特に強弓の主として知られていた。

義は官を解かれた。さすがに、これは為朝にとってショックだったようで、彼は鎮西を捨て、僅かな兵を連れて京に帰った。そんな時、保元の乱が起り(1156)、父為義と共に崇徳上皇側について後白河天皇側の平清盛や兄源義朝と戦い敗れた。

ここです。彼らはまだ伊豆七島の島々を征服、物資を我が物としたので、主である工藤(狩野)介茂光の追討を受け、ついに敗れて、島でもうけた。妻子共々自害して果てたという。1177(治承元)年のことであった。ところが為朝はそれより以前、伊豆大島を脱出して八丈島に至り、さらに琉球(沖縄本島)に渡っている。翌年には二人の間に琉球王国初代の舜天王が生まれているのである。

三島建設業協会総務委員会(山本良一委員長)は12月19日、令和5年度第2回総務委員会を三建中会議室で開催し、令和6年度各団体長表彰候補者の推薦について協議した。

山本委員長はいさつの中で、「皆さんの協力のおかげで今年も予定通り事業を進めることができた」と感謝し、「本日は団体長表彰者の推薦についてしっかりと審議してきたい」と話した。

三島建設業協会総務委員会(山本良一委員長)は12月19日、令和5年度第2回総務委員会を三建中会議室で開催し、令和6年度各団体長表彰候補者の推薦について協議した。

本来的に死罪となるところを、その豪勇を惜しまれ、二度と弓が引けないように両腕の筋を切られた上で、伊豆大島に遠流となった。

この説は「慶長小説」新井白石の「南島志」に「徳川光圀の『大日本史』にそのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

為朝神社 (大島町元町)

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

と、ここで、為朝が琉球に渡ったとする説でも、そのま琉球に留まっ

三建めぐり

三島信用金庫 大仁支店
お客さまサポーター

ひぐち ちひろ
樋口 千紘さん



～誰からも頼られる存在目指して～

「長年過ごした地元で地域の発展に貢献したい」という思いを軸に就職活動に取り組み、大学卒業後、縁あって三島信用金庫に入社した。就職説明会を通じて、地域の発展やお客様の課題解決に熱意を持って真剣に取り組む職員の姿に憧れを抱いたという。学生時代に飲食業で接客のアルバイトをしていた経験があり、「人と話すことが好き」な点を生かしたかったとも。



趣味の陶芸に集中する樋口さん

現在の主な業務は、営業係として集金と融資を担当している。店舗の周知や客足に悩む経営者から相談を受けた際には、顧客に寄り添いながら課題解決に奔走。後日に上司を紹介して顧客からの感謝の言葉を伝えられた時は、大きなやりがいを実感した。将来的には「お客様からも、職場からも頼られる存在」を目指し業務に取り組むとしている。

建設業とは住宅ローンの取り扱いで関わりがあり、「ハウスメーカーさんから図面を見させてもらおうと本当に緻密で難しそうに感じます。当然責任も大きいと思うのでとても大変なお仕事だと思います」とイメージを語る。

趣味は、昨夏に始めたという陶芸。もともと陶磁器には関心があり、伊豆高原や修善寺の陶芸教室へ足を運ぶそう。初めて小鉢を仕上げた時は喜びもひとしおだったとか。函南町出身、伊豆市在住。2000年3月23日生まれ。

フランス事情⑦④

『星の王子さま』は、笑ってる

三建会長 小野 徹



「星の王子さまミュージアム」飛行航路開拓に携わるなど、危険を厭わない「冒険好きな？行動派」であった。実際『星の王子さま』は、インドシナへの長距離飛行を目指していたサン＝テグジュペリが、リビアの砂漠に不時着し、

アフリカのダカールを経て、南米間一の飛行航路開拓に携わるなど、危険を厭わない「冒険好きな？行動派」であった。実際『星の王子さま』は、インドシナへの長距離飛行を目指していたサン＝テグジュペリが、リビアの砂漠に不時着し、



サン＝テグジュペリ

箱根の仙石原にあった『星の王子さまミュージアム』が、2023年（令和5年）3月末で閉館してしまった。このミュージアムは、サン＝テグジュペリの生誕100周年記念事業の一環として、1999年（平成11年）に開館し、日本人ばかりでなく、箱根を訪れる多くの外国人観光客をも惹きつけてきたが、残念ながら「星の王子さま」は、惜しまれつつ、ご自分の星に帰ってしまわれたのだ…！。

『星の王子さま』の作者、サン＝テグジュペリは、フランス南東部のリヨンの伯爵の子として生まれながら、じつとしていられない性格で、志願兵として陸軍飛行連隊に入隊した後は、民間の航空郵便業界に入り、パイロットとして、南仏から

中에서도、『夜間飛行』（1931年（昭和6年）刊）などは、名作であるばかりか、サン＝テグジュペリがこ

また、あまりにも有名な、『愛するということ』は、おたがいに顔を見あうことではなくて、いつしよに同じ方向を見るこ

『夜間飛行』を発売し、これは今でもフランス香水のトップブランドになっている。その名も

とだ」という名言は、恋愛というより、同一目的に向かう者の心得として

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ

王子は、地理学者に、王子の星の「火山」のこ



「星の王子さまミュージアム」のモニュメントの前で

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

その内容は――子ども

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど



王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

王子は「きみが星空を見上げると、そのど

近未来型
鉄骨加工工場

近藤鋼材株式会社

沼津営業所 沼津市沼北町2-2-16 TEL 055-925-1900

静岡営業所 静岡市駿河区丸子6280-1 TEL 054-256-1200

渡邊鐵工所 藤枝市善左衛門1471-12 TEL 054-634-3211

●JIS工場からより良い製品をお届け致します。

静岡県東部生コンクリート販売協同組合

事務所 沼津市大岡517-4 鈴福ビル2F
電話(055)955-6600 FAX(055)955-6601

■組 合 員

(株)イワタ沼津工場 静岡生コン(株)

東宏生コンクリート工業株式会社 裾野生コン(株)

三島生コン(株) 渡邊工業株式会社
第一生コン工場

(有)高田建材(株)タカムラ生コン

小野建設株式会社(株)古藤田生コン
修善寺生コン工場

新スルガ生コン(株)(株)広川生コン

二葉建設(株)生コン部 伊豆中央コンクリート
有限責任事業組合

水と空気 人を育む環境を求めて

株式会社 ワールドエンジニアング

本 社／〒411-0816 静岡県三島市梅名371-2
TEL.055-984-1244 FAX.055-984-3154

横浜支店／〒224-0024 神奈川県横浜市都筑区東山田町1610-1
TEL.045-594-7892 FAX.045-594-7893

厚木支店／〒243-0815 神奈川県厚木市妻田西1-25-14
TEL.046-297-7622 FAX.046-297-7633

建設業許可番号／国土交通大臣許可(特)第22830号 管工事業
(般)第22830号 電気工事業

創業100年・最新技術・末永いサービス
省エネと生活環境の向上を提供

空調・給水・給湯・衛生・上下水道・防災設備・設計・施工

片野設備株式会社

代表取締役社長 片野 彰一

ISO 9001
認証取得

〒411-0035 静岡県三島市大宮町3-3-12 TEL 055-971-2205(代) FAX 055-973-5246

E-mail: info@katanosetubi.co.jp URL http://www.katanosetubi.co.jp